

令和５年度 第１回学校運営協議会

住 所 盛岡市羽場18-11-1
学 校 岩手県立盛岡工業高等学校
校 長 瀬 戸 和 彦
電 話 019-638-3141

1 会議の名称

令和５年度第１回学校運営協議会

2 会議の日時

令和５年５月23日（火）14：45～15：40

3 会議の場所

盛岡工業高等学校 盛工百年館 第１研修室

4 出席者の氏名

清水 健司	岩手県立産業技術短期大学校 校長
池 浩之	岩手県工業技術センター 理事
浅沼 清一	エスペロの会 会長〔ＪＡ岩手中央代表理事組合長〕
佐々木 秀一	盛岡市立飯岡中学校 校長
中里 哲夫	同窓会 体育後援会副会長
中村 知泉	P T A 元 P T A 3 学年委員長

瀬戸 和彦	校長
千葉 靖久	副校長（全日制）
尾崎 芳彦	副校長（全日制）
宮沢 一裕	副校長（定時制）
鶴田 和久	事務長
菊池 光	教務主任（全日制）
阿部 正孝	総務主任（全日制）

【欠席者】

野田 純孝 株式会社ミクニ盛岡事業所 所長

5 会議の次第（進行：尾崎副校長）

辞令交付

- （１）開会
- （２）校長挨拶
- （３）委員自己紹介
- （４）学校運営協議会の設置について
- （５）会長、副会長の選出について
- （６）協議（進行：清水委員）
 - ア 令和５年度学校経営計画及び教育活動計画
 - イ 本校の魅力化、特色化に係る意見交換
 - （１）校舎移転について
 - （２）入学者数の確保について
 - （３）盛工匠祭について
 - （４）その他
- （７）その他
- （８）閉会

6 会議の概要（協議内容）

（1）辞令交付

机上への配付

（2）校長挨拶

4月7日の入学式に新入生222名を迎え、全校生徒695名で新年度のスタートを切った。県内では最大規模の学校の一つではあるが、このあと協議いただく本校の課題としては「生徒募集」と「学校の魅力化」が大きなものとなっている。委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、学校の経営、学校の魅力化等に活かして参りたい。

（3）委員紹介

各委員から自己紹介

（4）学校運営協議会の設置について

資料4ページをもとに千葉副校長が説明

（5）会長、副会長の選出について

昨年度に引き続き会長には清水委員、副会長を池委員に依頼することを千葉副校長から提案。他委員からの異議はなく、清水委員、池委員ともに承諾。

（6）協議（議長は清水会長が務める）

ア 令和5年度学校経営計画及び教育活動計画

資料5ページ[全日制]と6ページ[定時制]の学校経営計画について千葉副校長が説明した。Mプロジェクト、三つの方針（スクール・ポリシー）の作成経緯と記載内容についても千葉副校長が説明を行った。

学校経営計画の説明要旨

- ・毎年度、学校長から教職員に示される計画である。「4 目指す学校像」の重点目標それぞれに達成指標を掲げ、組織的に取り組んでいる。
- ・取組方針は資料記載のとおり。6ページは定時制の経営計画である。

三つの方針（スクール・ポリシー）について

- ・一昨年から昨年度にかけて作成し、公表したものである。全日制的アドミッション・ポリシーについては、記載内容に大きな変更はないが文末の表現を修正した。
- ・令和7年度からの入学者選抜が大きく変わることになった。アドミッション・ポリシーで本校が求める生徒像を示すことで対応していきたい。

【委員】

三つの方針、スクール・ポリシーは大事なものだと思うが、この三つのポリシーは指定されたものか。

【学校】

県から指定されたものである。

【委員】

今年度の重点目標について、達成指標の数値はどのようなことから設定したものか。

【学校】

国語、数学、英語の各教科の目標値を平均して設定した。学科毎ではなく、教科の目標値である。校内ではそれぞれ細かく設定しているが、県教委へ提出するにあたって分かりやすく達成できる数値として70%とした。

イ 本校の魅力化、特色化に係る意見交換

資料16ページをもとに千葉副校長が説明した。「(1)校舎移転について」は昨年度末3月に県教委事務局から示された調整案(朱書き部分)は要望よりも縮小されたこと、「(2)入学者数の確保について」は過去6年間での入学者数の減少が続いていること、「(3)盛工匠祭について」は昨年度の様子を追加資料と併せて説明し、今年度は10月14日(土)～15日(日)で開催が決まったことを報告した。

【委員】

校舎の移転について、県から示された調整案は決定事項なのか。

【学校】

教育長協議の結果を踏まえて示されたものであり、ほぼ決定事項である。階段教室の整備については、要望を続けていきたい。

【委員】

盛岡南高校の敷地に入ってすぐ左にある建物、施設は活用できないか。

【学校】

1階には小さい会議室と厨房、2階は畳敷きの大広間で合宿所の造りであることから、規模が小さく目的とする施設にはなり得ないとする。

【委員】

HR棟は現在の盛岡南高校の施設をそのまま活用するのか。

【学校】

大規模改修は入る。実習棟施設に予算を割かれることから、HR棟は改築ではなく既存の物に手を加えて使用する。

【委員】

普通高校の場合と比べて予算的には同じ規模なのか。

【学校】

予算という考え方ではなく、新たに土地を確保することに加え、実習棟を建設する必要性があるなど一概に比較できないものと考えている。

【委員】

難しい事だとは思いますが、地理的な問題や校舎、施設設備の老朽化によって盛工の魅力が落ちてきているのではないかと。生徒、保護者、地域の方や全国に魅力を発信するためには、何らかのセールスポイントがなければ難しいと思う。校舎などの建物以外でも運動施設を充実させるなどの必要があると考えている。そういったことも踏まえて今後もみんなで頑張っていければと思う。

【委員】

建物の話が出たが、体育館やグラウンドは現在よりも狭くなるのではないかと。

【学校】

体育館、グラウンドともに現在よりも狭くなる。盛岡南高校の現在の敷地は県有地と民有地が混在していたり、野球場と陸上競技場が重なって活動していたりする。ラグビー場や生徒の安全を確保するため、学校側の要望として十分な用地の確保をお願いしている。

【委員】

実習棟などが建つことで、敷地が狭くなることが予想される。これまでの学習活動や部活動が制限されてしまうことはあってはならない。体育館やグラウンドの整備も併せて、しっかりと要望していくべきである。

【学校】

今現在の教育環境（敷地面積等）を維持できるよう、要望として伝えてはいる。

【委員】

地域としては、盛工がこの場所に存在していることはとてもありがたい。県内でもこれほどの敷地を有する高校は無いのではないかと。しかし、通学する生徒のことを考えると、残念ながら移転の話も止むを得ない。そもそもなぜ、盛岡工業高校が移転しなければならないのか根本的な理由がわからない。地域にとっては工業高校があることがとてもありがたい。幼稚園や小学校、中学校の幼児児童生徒が高校生を見ている。学校間交流として行っているロボット実演等々、モノづくりを身近に感じてもらえる環境をつくってもらっているのに、なぜ移転しなければならないのか。通学の距離や時間を考えると致し方無いと思うが、なぜ移転なのか理由がわからないが、仕方がない。

【学校】

当初は、再編計画の中で「検討していく」という文言だったが、今の状況では「移転する」という方向で進んでいる。

【委員】

そのようではあるが、今のようなご意見が出されてしまうことへの明快な答えが欲しいと感じる。移転中止を求めるわけではないが、移転が決まった経緯を調べていただき、話せる情報があれば次の機会にお願いしたい。

【委員】

入学者数の確保について、資料16ページの表を見れば一目瞭然であり、教師の立場からすれば子どもの数が減少していることは好ましいことではない。そのことについて、先生方はどのように捉えているのか。

【学校】

令和元年度から2度目の勤務だが、以前は1,000人を超える生徒が在籍していた。入学者数も定員を割ることはなかった。部活動の関係で各中学校を回っているが、一番言われる事、本校にとって一番影響が大きい事は「授業料の無償化」だと思っている。以前は、県立高校の授業料が安いことから部活動に積極的な生徒が本校に入学していたが、今は私立も一緒であることの影響が大きいのではないかと。また、学校が市街地から遠い、通学バスの本数が少ない、駅から遠い、冬期間は自転車通学ができないことなどが理由としてあげられるのではないかと。市内のある中学校教員に、「自宅から自転車で10分程度の距離に私立高校があれば、片道1,000円以上の交通費を負担してまでの通学は難しい。盛工に魅力がないわけではないが、地理的な面や経済的な負担は大きい。」と言われたことがあり、そのような理由ではないかと思っている。

【委員】

入学者の確保に関しては非常に複雑な問題であり、競争になっている。様々な理由は考えられるが、今回話し合ったことについてお気づきの点やご意見、改善策、アイデアを事務局にいただければよろしいかと思う。

(7) その他
特になし

(8) 閉会

7 議決事項

協議会会長 清水 健司（岩手県立産業技術短期大学校 校長）
協議会副会長 池 浩之（岩手県工業技術センター 理事）

8 会議のまとめ

本日皆様からいただいたご意見やご質問については今後も検討協議を重ね、本校の教育活動を更に充実発展させていきたい。今後ともご支援、ご協力をお願いしたい。